

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-135241

(43) 公開日 平成9年(1997)5月20日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 L 12/02		9466-5K	H 0 4 L 11/02	D
H 0 4 J 3/00			H 0 4 J 3/00	Z
H 0 4 L 12/46			H 0 4 M 3/00	B
12/28			H 0 4 Q 3/00	
H 0 4 M 3/00			H 0 4 L 11/00	3 1 0 C

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平7-288852

(22) 出願日 平成7年(1995)11月7日

(71) 出願人 000003942

日新電機株式会社

京都府京都市右京区梅津高畝町47番地

(72) 発明者 松田 義巳

京都府京都市右京区梅津高畝町47番地 日

新電機株式会社内

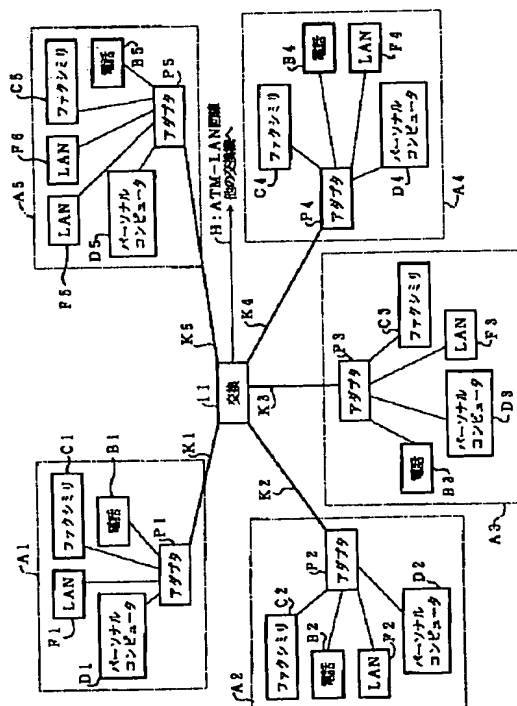
(74) 代理人 弁理士 原 謙三

(54) 【発明の名称】 通信インタフェイス装置

(57) 【要約】

【課題】 電話機B、ファクシミリ送受信機CおよびパーソナルコンピュータDなどの情報処理装置の増加に対して、交換機11等を容易に対応可能とする。

【解決手段】 各テーブルAなどに設置された前記各情報処理装置からの通信回線は、アダプタPに統合して入力されており、このアダプタPにおいて伝送すべきデータが微小なパケットデータとして規格化されて時分割多重で、通信回線Kから交換機11へ送信されてゆく。それゆえ、通信回線Kおよび他のネットワークと接続しているATM-LAN回線Hを介して多重通信を行うことによって、情報処理装置の増加に対しても、交換機11へのケーブル数が増加することなく、また交換機11の容量も大きくする必要はなく、容易に対応可能とすることができる。また、伝送されるデータは、微小パケットデータであるので、伝送遅れもわずかに抑えることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】取扱われるデータが相互に異なる複数の各情報処理装置に関連して個別的に設けられ、対応する情報処理装置からの通信要求および対応する情報処理装置への通信要求に応答し、対応する情報処理装置からのデータを各情報処理装置間で共通の伝送形式に変換するとともに、対応する情報処理装置へのデータを該情報処理装置に固有の伝送形式に逆変換するための第1の演算処理装置およびメモリを備える端末ポートと、前記各端末ポートと共通の通信回線との間に介在され、前記各情報処理装置からのおよび各情報処理装置への通信要求に応答し、各端末ポートを介する情報処理装置から入力されたデータを予め定める微小なデータ量毎にパケットし、かつ少なくともそのデータの宛先を表すヘッダを付加して、選択的に前記通信回線へ送信してゆくとともに、通信回線から受信されたパケットデータを、前記ヘッダに基づいて各情報処理装置へ出力してゆく第2の演算処理装置およびメモリを備える通信ポートとを含むことを特徴とする通信インタフェース装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、パーソナルコンピュータやファクシミリ送受信機などの情報処理装置を相互に接続するための通信インタフェース装置に関する。

【0002】

【従来の技術】図5は、典型的な従来技術の通信系統を説明するための図である。この図5で示す例では、事業所などにおける複数の各デスクa1, a2, ..., a5間で、および公衆回線hを介して他の事業所などとの間でデータ通信が行われる。

【0003】デスクa1には、電話機b1、ファクシミリ送受信機c1、パーソナルコンピュータd1およびそのモデムe1ならびにワークステーション等のLAN (Local Area Network) 端末f1などの複数の情報処理装置が設置されている。残余のデスクa2～a5にも同様に、それぞれ電話機b2～b5、ファクシミリ送受信機c2～c5、パーソナルコンピュータd2～d5およびLAN端末f2～f6などの情報処理装置が設けられている。なお、以下の説明では、各デスクa1～a5上の電話機b1～b5やファクシミリ送受信機c1～c5に対して、個別に参照するときには英字の参照符号にそれぞれ添数字を付して示し、総称するときには前記添数字を省略して示す。

【0004】パーソナルコンピュータdは、たとえばRS-232Cなどの通信プロトコルによってデータ伝送を行うように構成されており、したがって電話回線を使用しての伝送にあたって、モデムeが設けられている。デスクa1の電話機b1、ファクシミリ送受信機c1およびモデムe1の各情報処理装置は、それぞれ社内線などのケーブルk11, k12, k13を介して、交換機

1と接続されている。同様に、残余のデスクa2～a5の情報処理装置は、ケーブルk21～k23; k31～k33; k41～k43; k51～k53を介して、交換機1と接続されている。交換機1は、公衆回線hと接続されている。

【0005】一方、前記各LAN端末f1～f6は、集線器であるハブg1～g6において、いわゆるイーサネットなどのネットワーク2に接続されている。

【0006】

10 【発明が解決しようとする課題】上述の従来技術では、たとえばファクシミリ送受信機c内のモデムやモデムeで見られるように、接続される通信相手は予め定められており、したがってファクシミリやパーソナルコンピュータなどにおいて通信を行うためのインタフェースは、それぞれ個別に設けられている。このようにして、必要となった情報処理装置を個別に設置してゆくようにし、通信系統の構成を所望とする形態に容易に構築することができるように構成されている。また、データ伝送速度の向上などの機能の向上も、各情報処理装置毎に行うこと

20 によって、容易に実現可能とされている。

【0007】しかしながら、各情報処理装置毎にケーブルkが敷設されるので、情報処理装置数が増加してゆくと、ケーブル数が多くなって、新規の敷設や変更が非常に困難になるとともに、多くのケーブルによって床面が乱雑になり、歩行が困難になるという不具合もある。

【0008】さらにまた、交換機1にも、接続される情報処理装置の増加に対して、大容量の機器に更新してゆく必要が生じ、コストが高むという問題もある。

30 【0009】本発明の目的は、情報処理装置の増加に容易に対応することができる通信インタフェース装置を提供することである。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明に係る通信インタフェース装置は、取扱われるデータが相互に異なる複数の各情報処理装置に関連して個別的に設けられ、対応する情報処理装置からの通信要求および対応する情報処理装置への通信要求に応答し、対応する情報処理装置からのデータを各情報処理装置間で共通の伝送形式に変換するとともに、対応する情報処理装置へのデータを該情報処理装置に固有の伝送形式に逆変換するための第1の演算処理装置およびメモリを備える端末ポートと、前記各端末ポートと共通の通信回線との間に介在され、前記各情報処理装置からのおよび各情報処理装置への通信要求に応答し、各端末ポートを介する情報処理装置から入力されたデータを予め定める微小なデータ量毎にパケットし、かつ少なくともそのデータの宛先を表すヘッダを付加して、選択的に前記通信回線へ送信してゆくとともに、通信回線から受信されたパケットデータを、前記ヘッダに基づいて各情報処理装置へ出力してゆく第2の演算処理装置およびメモリを備える通信ポートとを含むこ

とを特徴とする。

【0011】上記の構成によれば、ファクシミリ送受信機やパーソナルコンピュータなどの複数の各情報処理装置はそれぞれ専用の端末ポートに接続され、伝送すべきデータは専用のプロトコルから、伝送にあたっての共通の伝送形式に変換される。この変換されたデータは、ATM-LANなどで実現される通信回線と接続されている通信ポートにおいて、前記通信回線での伝送形式に対応して、微小なデータ量毎にパケットされた後、各パケットに少なくとも宛先を表すヘッダが付加されて高速送

信される。
【0012】これに対して、通信回線から受信されたパケットデータは、ヘッダが解読されて、対応する情報処理装置の端末ポートへ伝送され、各情報処理装置に対応したプロトコルに逆変換が行われて、情報処理装置へ入力される。

【0013】したがって、伝送品質などを決定する各情報処理装置からの伝送レートに対応して、単位時間当りのその情報処理装置のためのパケットデータ数が変化するだけであり、各情報処理装置からのデータは、大きく遅延することなく、その情報処理装置に定められた通信品質を実現することができる伝送容量で、各通信相手の情報処理装置へ時分割多重で送信されることになる。

【0014】したがって、各デスクなどでは、該デスクに設置される多数の情報処理装置からのケーブルが、該通信インタフェースに接続されることによって、統合されて交換機へ出力されてゆくことになり、情報処理装置の増加に対して、交換機までのケーブルを増加する必要はなく、また交換機も変更する必要がなくなり、情報処理装置の増加に対して容易に対応可能とすることができる。

【0015】

【発明の実施の形態】本発明の実施の一形態について、図1～図4に基づいて説明すれば以下のとおりである。

【0016】図1は、本発明の実施の一形態の通信系統を説明するための図である。この図1で示す例では、事業所などにおける複数のデスクA1、A2、…、A5間で、および後述するATM-LAN回線Hを介して他の事業所などとの間でデータ通信が行われる。

【0017】デスクA1には、電話機B1、ファクシミリ送受信機C1、パーソナルコンピュータD1およびワークステーション等のLAN端末F1などの複数の情報処理装置が設置されている。残余のデスクA2～A5にも同様に、それぞれ電話機B2～B5、ファクシミリ送受信機C2～C5、パーソナルコンピュータD2～D5およびLAN端末F2～F6などの情報処理装置が設けられている。なお、以下の説明では、各デスクA1～A5上の電話機B1～B5やファクシミリ送受信機C1～C5に対して、個別に参照するときには英字の参照符号にそれぞれ添数字を付して示し、総称するときには前記

添数字を省略して示す。

【0018】注目すべきは、本発明では、各デスクA1～A5には、それぞれ通信インタフェース装置であるアダプタP1～P5が設置されていることである。アダプタPには、電話機B、ファクシミリ送受信機C、パーソナルコンピュータDおよびLAN端末Fが接続されており、該アダプタPは後述するように、これらの情報処理装置へのデータおよび情報処理装置からのデータを統合して通信を行う。

【0019】各アダプタP1～P5は、光ファイバや同軸ケーブルなどで実現されるケーブルK1～K5とそれぞれ接続されている。前記各デスクAからの通信回線Kは、交換機11に接続されている。また、交換機11は、光ファイバや同軸ケーブルなどで実現されるB-ISDN (Broadband Integrated Service Digital Network: 超高速通信網) の通信回線から成り、後述するATM-LAN回線Hを介して、他の事業所などの交換機と接続される。したがって、この交換機11を介して、各アダプタP間の通信が可能となり、また他のネットワークとの接続が実現される。

【0020】前記通信回線KおよびATM-LAN回線Hならびに交換機11は、ATM (Asynchronous Transfer Mode: 非同期転送モード) と称される伝送形式に対応している。したがって、アダプタPは、電話機Bからのアナログ音声信号を、デジタルデータに変換するとともに、後述するようにして、このATMデータに変換して通信回線Kおよび交換機11を介して通信を行う。またアダプタPは、ファクシミリ送受信機Cに対しては、GII, GIII等の伝送形式のファクシミリデータを前記ATMデータに変換する。さらにまたアダプタPは、パーソナルコンピュータDの通信プロトコルであるRS-232Cを前記ATM形式に変換するとともに、イーサネットなどに適応したLAN端末Fのプロトコルを前記ATMに変換する。

【0021】図2は、前記アダプタPの具体的構成を示すブロック図である。このアダプタPは、前記電話機Bおよびファクシミリ送受信機Cなどの各情報処理装置B、C、D、Fに個別に対応した専用ポートPB、PC、PD、PFと、通信回線Kに対応したポートPKとを備えて構成されている。

【0022】ポートPBは、マイクロコンピュータなどで実現される処理回路12と、該処理回路12の演算処理のためなどに用いられるメモリ13と、アナログデジタル変換器などで実現され、電話機Bからの音声信号をデジタルデータに変換して送信および受信された電話機Bへのデジタルデータを音声信号に変換するインタフェース回路14と、発呼時などに操作されるプッシュボタンの識別を行うためのプッシュホン識別回路15とが、バス16に接続されて構成されている。

【0023】一方、ポートPFは、処理回路17、メモ

り18およびインタフェイス回路19がバス20に接続されて構成されている。残余のポートPC、PDは、それぞれポートPB、PFと同様に構成されている。

【0024】これに対して、ポートPKは、通信動作を制御するための処理回路21と、メモリ22と、複数、たとえば8個の通信ユニット23と、インタフェイス回路24と、タイミング制御回路25とを備えて構成されている。各通信ユニット23は、アドレスレジスタ26と、バイト数レジスタ27と、ヘッダレジスタ28と、データレジスタ29とを備えて構成されている。

【0025】図3は、通信回線KおよびATM-LAN回線Hで伝送されるデータの作成手順を示す図である。たとえば、ファクシミリ送受信機CやLAN端末Fの場合には、これらのファクシミリ送受信機CやLAN端末FからポートPC、PFに、図3(a)において参照符S1で示すような、最大で64KBを単位とする伝送すべきデータが入力される。各ポートPC、PFでは、前記データS1の先頭にデータ源の種別を表すAAL(ATM Adaptation Layer)ヘッダS2が付加されるとともに、終端に単位データの終了を表すAALトレイラS3

が付加される。

【0026】ポートPKの各通信ユニット23は、図3(b)で示すように、前記ヘッダS2、データS1およびトレイラS3から成るデータを、先端側から、予め定める固定データ長である48バイトを単位セルとして、順次、区分してゆき、さらに図3(c)で示すように、各セルの先頭に相手先のアダプタPのアドレス、またはセルの内容がデータであるのかもしくは網の状態を通知するデータであるのかなどのセルの種類を示すデータから成る5バイトのATMヘッダS12を付加する。通信回線KおよびATM-LAN回線Hの伝送レートは、

1. 5~600Mbps、たとえば155.52Mbpsの高速に選ばれており、ATMヘッダS12の付されたセルS11は、3μsec毎に、図3(d)で示すように、通信回線Kを介して、通信相手のアダプタに送信されてゆく。この図3(d)で示すように、伝送レートの高い情報処理装置間、たとえばファクシミリ送受信機C1からC3への伝送には、伝送レートの低い電話機B1からB2への伝送よりも、単位時間当りに多くのセルS11が使用される。

【0027】前記ATMヘッダS12は、図4で示すように、物理レイヤR1と、ATMレイヤR2と、AALレイヤR3と、残余の上位レイヤR4とを備えて構成されている。物理レイヤR1は、伝送フレームの生成および復元ならびにセル境界の識別などのために設けられている。ATMレイヤR2は、電話機Bやファクシミリ送受信機Cなどの各情報処理装置に対応する複数の仮想的なバスまたはチャネルを、1本の物理回線である前記通信回線Kに接続し、セルの多重化および分離などを行うためのものである。AALレイヤR3は、音声、映像ま

たはデータ等のサービス品質、すなわち通信特性の異なるサービスに依存する上位レイヤR4と、前記ATMレイヤR2との間の整合を得るために設けられており、ATMレイヤR2の備える伝送機能に、サービス固有の機能を付加するためのものである。

【0028】前記AALレイヤR3には、たとえば5つの種類が設けられている。第1の種類のAALレイヤは、音声などの低ビットレートの固定速度の伝送に用いられ、送信側では、たとえば1バイト単位で送信要求の発生するデータをセル化し、受信側では、そのセルからデータ列を再生するためのものである。また、第2の種類のAALレイヤは、画像情報などの可変長のデータ単位を送信可能とするものである。

【0029】さらにまた、第3~第5の種類のAALレイヤは、データ通信用に設けられており、前記図3

(a)で示すような伝送すべきデータS1が、何個目のセルの何番目の位置までで構成されているのかを表すために設けられている。このうち、第3および第4の種類のAALレイヤは、対応するセルが、データの先頭部であるのか、接続部であるのか、または終了部であるのか、もしくはそのセルのみで単一のデータを表すのかを示しており、これに対して第5のAALレイヤは、対応するセルが次のセルまで継続するデータであるか否かのみを表している。

【0030】したがって、たとえば第3および第4のAALレイヤは、パーソナルコンピュータDのために使用され、これに対して第5のAALレイヤは、ファクシミリ送受信機CおよびLAN端末Fのために使用される。この第5の種類のAALレイヤが使用されるファクシミリとLANとの種別判定は、ユーザが独自に設定する上位レイヤR4を参照して行われる。

【0031】図4で示すように、たとえばファクシミリ送受信機C1からのデータを送信するにあたって、アダプタP1は、上述のような伝送すべきデータに対応したATMヘッダS12を、該データを区分して作成したセルS11に付加して、ケーブルK1を介して交換機11へ伝送する。この交換機11と、送信相手のファクシミリ送受信機Caを有するアダプタPaが接続される交換機11aとの間のATM網では、前記物理レイヤR1とATMレイヤR2とによって、データの伝送先が区分される。前記交換機11からATM-LAN回線Hおよび交換機11aを介するデータは、ケーブルKaを介して前記アダプタPaに入力され、再び物理レイヤR1、ATMレイヤR2およびAALレイヤR3ならびに必要に応じて上位レイヤR4を参照して、データの送信先が判定され、前記ファクシミリ送受信機Caに復元されて伝送される。

【0032】再び図2を参照して、アダプタP内の各ポートPB、PC、PF、PKの動作について詳述する。電話用のポートPBにおいて、電話機Bには汎用のアナ

ログ回線用の電話機が接続可能とされている。したがって、電話機Bの発信時には、操作者のダイヤルまたはプッシュボタン操作によって、ダイヤルパルスまたはプッシュ音が発生し、ポートPBに入力される。前記ダイヤルパルスは、インタフェイス回路14から処理回路12に入力され、またプッシュ音は、プッシュホン識別回路15において操作されたプッシュボタンに対応するデータに変換された後、前記処理回路12に入力される。

【0033】処理回路12は、入力されたダイヤルパルスまたはプッシュ音データから相手先の電話番号を解析し、メモリ13に記憶されているその電話番号とATM-LANアドレスとの変換テーブルを参照し、相手先のATM-LANアドレスを取得すると、そのアドレスに対応する相手先のアダプタと、電話モード、すなわち前記AALレイヤが第1の種類のAALレイヤで接続の要求を行う。相手側のアダプタは、前記接続要求に回答して、電話モードであることを検出すると、電話用のポートPBの処理回路12からメモリ13に記憶されている呼出音のデータを読み出し、インタフェイス回路14を介して電話機Bへ出力して、呼出音を発生させる。

【0034】これによって、通話相手が受話器を取上げるなどをして、電話機B同士が相互に接続された状態となると、受話器から入力された音声信号をインタフェイス回路14内のアナログ/デジタル変換器でデジタル値のデータに変換し、処理回路12に入力する。処理回路12は、入力されたデータを予め定める単位長さの前記データS1に区分するとともに、前記AALヘッダS2およびAALトレイラS3を付加して、伝送すべきデータを作成してメモリ13にストアさせる。

【0035】こうして作成されたデータを、通信回線用のアダプタPKにおいて、処理回路21は、タイミング制御回路25によって選択された通信ユニット23のアドレスレジスタ26によって、バイト数レジスタ27で設定されている前記48バイトずつ読み出してデータレジスタ29にストアさせる。このとき、処理回路21はまた、前記変換テーブルから得られたATM-LANアドレスなどから成るATMヘッダS12を作成して、ヘッダレジスタ28にストアさせる。ヘッダレジスタ28内のATMヘッダS12およびデータレジスタ29内のセルS11は、インタフェイス回路24を介して、前記通信回線Kに出力されてゆく。

【0036】一方、データを受信したアダプタPでは、インタフェイス回路24を介して、ヘッダレジスタ28およびデータレジスタ29に入力された前記ATMヘッダS12およびセルS11から、処理回路21は、相手先となるべき電話機BのポートPBのメモリ13に、バイト数レジスタ27でカウントされたバイト数のセルS11から前記図3(a)で示すようなデータを復元し、処理回路12へ転送する。処理回路12では、前記AALヘッダS2およびAALトレイラS3が除去されてデ

ータS1が抽出され、該データS1はインタフェイス回路14においてデジタル/アナログ変換された後、電話機Bから出力される。

【0037】同様にファクシミリ送受信機Cに関しても、ファクシミリ用のポートPCが前記ダイヤルパルスまたはプッシュ音に回答して接続要求を行い、回線が接続されると、前記AALレイヤR3を第5の種類のAALレイヤとするとともに、上位レイヤR4にファクシミリであることが設定されて、伝送すべきデータS1が48バイト毎にパケットされて、セルS11として通信が行われる。

【0038】さらにまた、パーソナルコンピュータD用のポートPDでは、パーソナルコンピュータDのRS-232Cの通信プロトコルによってモデムと接続されるべき端子がこのポートPDに接続される。前記モデムとデータの転送には、通常は非同期転送方式が用いられ、また電話回線への発信はATコマンド方式によって行われている。

【0039】したがって、ポートPDでは、パーソナルコンピュータDからの前記ATコマンドを受信すると、相手先の電話番号を解析し、その電話番号と前記ATM-LANアドレスとの変換テーブルを参照して、相手側のATM-LANアドレスを取得する。こうしてアドレスを取得すると、上述と同様にして、相手側のアダプタとRS-232Cモード、すなわち前記AALレイヤR3を第3または第4の種類のAALレイヤとして相手先のパーソナルコンピュータDに着信があったことを示すコマンドを送出し、これに回答してパーソナルコンピュータD同士が接続されると、前記ポートPKによってデータが48バイトずつ送出されてゆく。

【0040】また、LAN用のポートPFでは、たとえば一般に広く使用されているTCP/IPプロトコルを使用したイーサネットの場合には、IPパケットと称される単位でデータの転送が行われるので、ワークステーションやパーソナルコンピュータなどで実現されるLAN端末Fからパケットデータを受信したポートPFは、まずそのパケットデータを解析し、相手側のIPアドレスを取得する。次にそのIPアドレスとATM-LANアドレスとの変換テーブルを参照し、相手側のATM-LANアドレスを取得する。その後、前記IPパケットを48バイト単位のセルS11に分割するとともに、先に得られたATM-LANアドレスを有するATMヘッダS12を付加して、ATMパケットとして送信を行う。

【0041】受信側のアダプタPでは、受信されたATMパケットを再度IPパケットに構成して、LAN用のポートPFからLAN端末Fへ出力する。

【0042】なお、通常のイーサネットでは、CSMA/CDと称される衝突検出方式が採用されており、他のLAN端末からのデータの衝突を起こす可能性があるけ

れども、本実施例のATM通信の場合には原理的には衝突は発生せず、また全二重通信が可能となる。

【0043】このように本発明に従うアダプタPを使用することによって、電話機B、ファクシミリ送受信機C、パーソナルコンピュータDおよびLAN端末Fなどの複数の情報処理装置からのデータが、微小な単位データ毎にパケット通信され、かつ各情報処理装置毎のサービス品質、すなわち伝送レートに対応して、単位時間当りのパケット数が増加される。

【0044】したがって、各情報処理装置からの通信回線Kは、このアダプタPで統合されて交換機11へ導出されてゆくので、情報処理装置数が増加してもケーブル数を増加する必要がなく、ケーブルの引回しの変更を容易に行うことができるとともに、床面における障害物を削減することができる。また、交換機11も、情報処理装置数の増加に対して容量を大きくしてゆく必要がなく、必要に応じて小規模な交換機を増設・分散し、それらの間を接続してルーチングを行うことによって、コストを抑えつつ、情報処理装置の増加に容易に対応することができる。さらにまた、パケットデータを構成するセルS11は、微小なデータであるので、複数の情報処理装置からのデータが多重化されても、大きな遅延が発生することはない。

【0045】なお、各ポートPB、PC、PF、PKのそれぞれに処理回路12、17、21が設けられていなくてもよく、アダプタP内に前述のような通信動作を行うための処理回路が1つだけ設けられているようにしてもよい。

【0046】また、交換機11と他の交換機とを接続する通信回線には、前記ATM-LAN回線Hに限らず、他の高速デジタル回線が用いられてもよい。さらにまた、各アダプタPには、電話機B、ファクシミリ送受信機C、パーソナルコンピュータDおよびLAN端末Fが選択的に接続されてもよく、またこれら以外の他の情報処理装置が接続されてもよい。

【0047】

【発明の効果】本発明に係る通信インタフェース装置は、以上のように、ファクシミリ送受信機やパーソナルコンピュータなどの複数の情報処理装置を専用の端末ポートに接続し、伝送すべきデータを専用のプロトコルから伝送にあたっての共通の伝送形式に変換した後、微小なデータ量毎にパケットして、少なくともその宛先を表すヘッダを付加して、時分割多重で高速送信する。

【0048】それゆえ、単位時間当りのパケットデータ数が増加することによって、伝送品質などを決定する伝

送レートに対応した送信が行われることになり、各情報処理装置からのデータは大きく遅延することなく、その情報処理装置に定められている通信品質を実現することができる伝送容量で送信される。したがって、各デスクなどでは、多数の情報処理装置からのケーブルが該通信インタフェース装置によって統合されて交換機へ出力されてゆくことになり、情報処理装置の増加に対して交換機までのケーブルを増加する必要がなくなり、また交換機も変更する必要がなくなり、情報処理装置の増加に容易に対応することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の一形態の通信システムを説明するための図である。

【図2】前記図1で示す通信システムを実現するためのアダプタの具体的構成を示すブロック図である。

【図3】前記アダプタによるデータ変換および送信動作を説明するための図である。

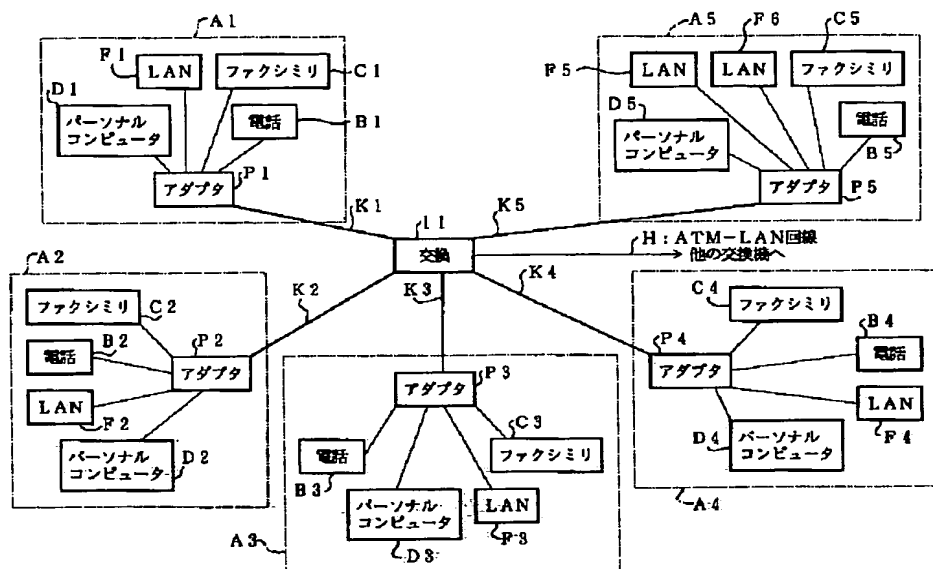
【図4】データの宛先および種別等を表すATMヘッダの内容を説明するための図である。

【図5】典型的な従来技術の通信システムを説明するための図である。

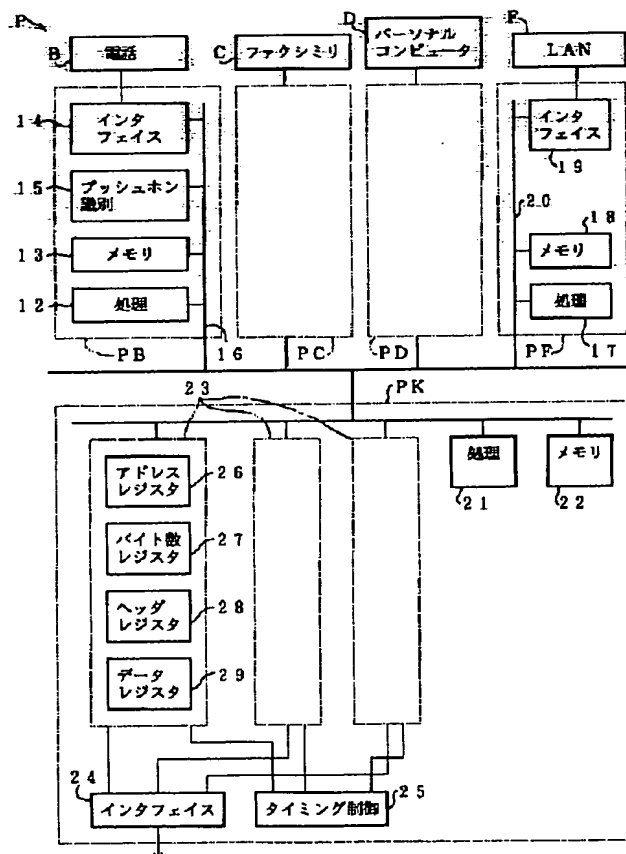
【符号の説明】

- 11 交換機
- 11a 交換機
- 12 処理回路（第1の演算処理装置）
- 13 メモリ（第1のメモリ）
- 17 処理回路（第1の演算処理装置）
- 18 メモリ（第1のメモリ）
- 21 処理回路（第2の演算処理装置）
- 22 メモリ（第2のメモリ）
- 23 通信ユニット
- 25 タイミング制御回路
- A デスク
- B 電話機
- C ファクシミリ送受信機
- D パーソナルコンピュータ
- F LAN端末
- H ATM-LAN回線
- K 通信回線
- P アダプタ
- PB ポート（端末ポート）
- PC ポート（端末ポート）
- PF ポート（端末ポート）
- PK ポート（通信ポート）

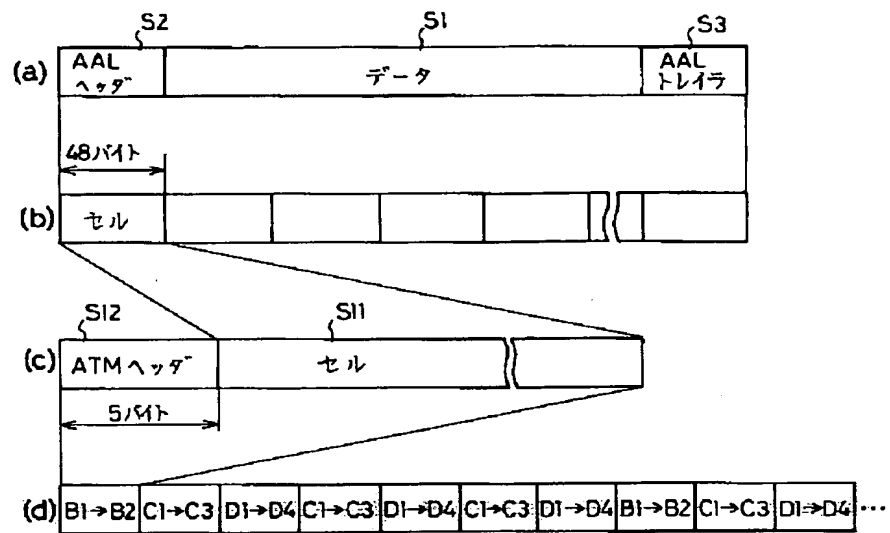
【図1】



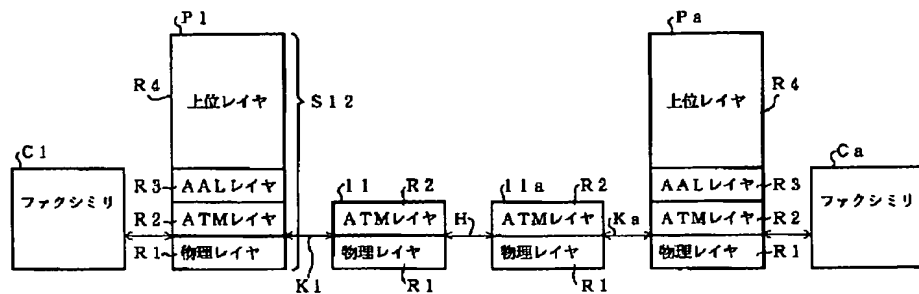
【図2】



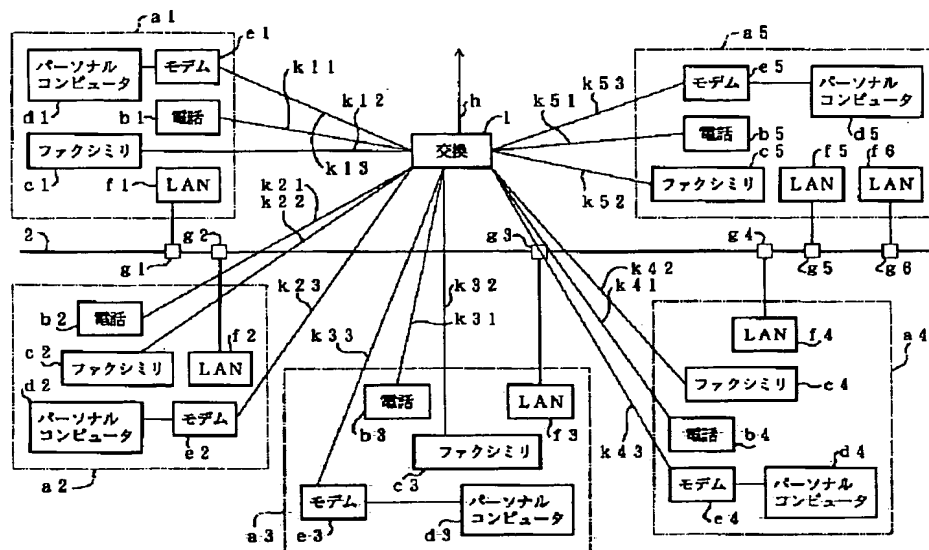
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶
H 0 4 Q 3/00

識別記号

庁内整理番号
9466-5K

F I
H 0 4 L 11/20

技術表示箇所

D